

公益財団法人 鉄鋼環境基金
第 39 回(2018 年度)研究助成事業 応募状況

今年度の研究助成事業の公募は、例年通り 4 月・5 月に行った。応募状況は以下の通りである。

【応募状況全般】(カッコ内は過去 4 年の数字)

- ① 応募総数は **146 件** ('14:197、'15:194、'16:177、'17:180)であり、昨年度より 34 件、19%減少した。
うち、新規テーマは 117 件、継続テーマは 29 件の応募であった。
- ② 大学からの応募は **116 件** ('14:163、'15:157、'16:146、'17:144)であった。
- ③ 高専からの応募は **12 件** ('14:17、'15:19、'16:9、'17:16)であった。
- ④ 研究所・団体等からの応募は **18 件** ('14:17、'15:17、'16:23、'17:20)であった。
- ⑤ 若手研究の応募は **42 件**・全体の 28% ('14:32・16%、'15:29・15%、'16:38・21%、'17:52・29%)。
- ⑥ 初めての応募者は **41 人**・全体の 28% ('14:63・32%、'15:68・35%、'16:55・31%、'17:60・33%)。

【応募件数・助成件数の推移】

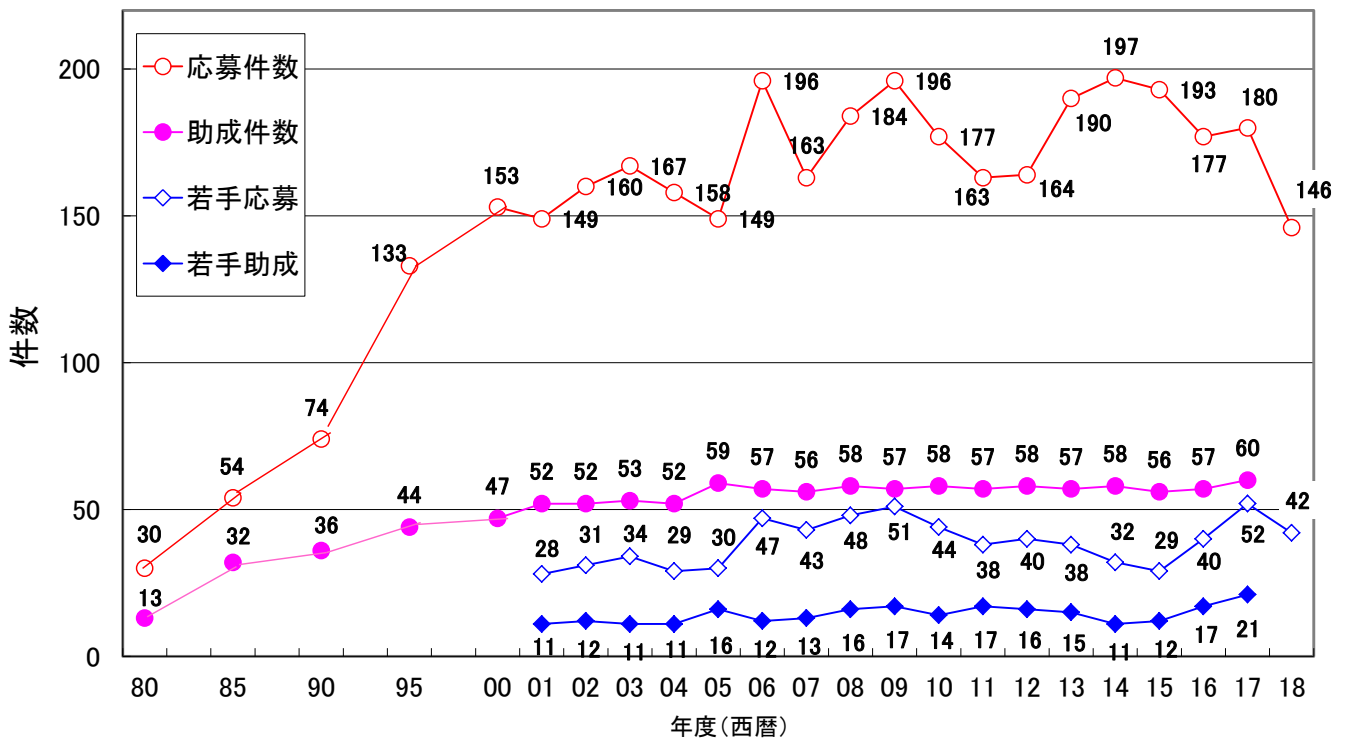


図 応募件数・助成件数の推移

【分野別応募件数】

分野	応募件数		
	一般	若手	合計
(1)大気環境保全技術	25	5	30
①省エネ・低コスト・高効率化	4	0	4
②水銀等重金属の低減	3	1	4
③PM2.5対策	18	4	22
④その他	0	0	0
(2)土壌・水質保全技術	34	20	54
①水処理の省エネ・低コスト・高効率化	12	7	19
②排水中重金属除去・回収	10	3	13
③土壌地下水汚染	6	8	14
④閉鎖性海域	5	1	6
⑤その他	1	1	2
(3)副産物利用促進・廃棄物効率的処理	23	7	30
①スラッグの利用・高付加価値化	22	7	29
②副産物の減量減容化、再利用	1	0	1
③水銀汚染廃棄物の効率的処理	0	0	0
④その他	0	0	0
(4)地球環境問題	18	10	28
①抜本的CO ₂ 排出削減	6	3	9
②未利用エネルギー有効活用	6	4	10
③CO ₂ 分離・固定・隔離	6	3	9
④その他	0	0	0
(5)エコプロセス	2	0	2
①環境汚染物質の発生抑制・極小化	1	0	1
②循環型社会の構築	1	0	1
③その他	0	0	0
(6)その他、募集対象外	2	0	2
合計	104	42	146

下線：特に関心のある技術課題